

## 平成19年度八重山群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

### 5月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30%	30%	40%
平年並	40%	40%	30%
低い(少ない)	30%	30%	30%

(平成19年4月20日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

### 地点別の平均値

要 素	平均気温( )	最高気温( )	最低気温( )	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	25.5	28.1	23.5	221.4	159.2

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

### 5月の発生予報

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

## 八重山群島

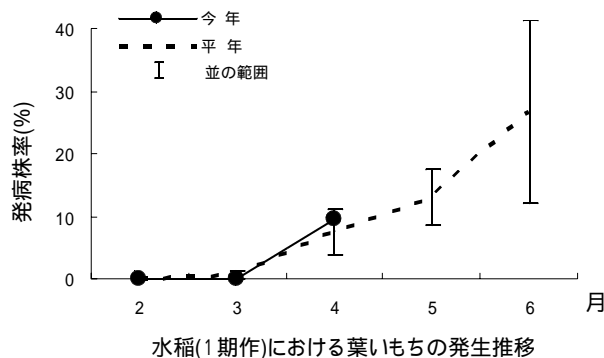
### 1 水稻1期作

#### (1) 葉いもち

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 4月中旬の調査の結果、発病株率は9.4%(前年16.5%、平年7.5%)と平年並であった。
- b 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年並の確率が40%と予想されており、また、梅雨期に入るため本病の発生が助長されやすい。



### 防除上注意すべき事項

- a 上位葉に病斑が目立つ場合は、穂いもちに移行する可能性が高く、早期発見・早期防除に努める。
- b 窒素肥料の多用、特に常発地では穂肥の多用を避ける。

### 斑点米カメムシ類

- a 4月中旬の調査の結果、捕虫網によるすくい採り虫数は20回振り当たり0.02頭(前年0.3頭、平年0.2頭)と平年より少なかった。
- b 水田周辺及び畦畔の雑草は、繁殖・飛来源となるので除草する。
- c 防除は穂揃期とその7～10日後の2回を目安に行う。

## 2 さとうきび

### 黒穂病の防除対策

- a 主に株出し圃場において黒穂病が発生し始め、ピークは4～6月である。
- b 生育初期は発病株の識別が容易で、抜き取り作業もしやすいので、早期発見・早期防除に努める。
- c 胞子の飛散を避けるため、発病株は黒穂(鞭状体)の出現前に抜き取り処分する。
- d 黒穂がみられた場合は、早めに抜き取り処分する。
- e 発病の多い地域では株出しはなるべく避ける。
- f 発病の多い地域では、収穫後更新までの圃場放置が本病の発生源となるため、圃場管理を兼ね、速やかに耕耘(ロータリー、碎土)する。
- g 抵抗性品種を植え付ける。
- h 苗は未発生地域から採取するか薬剤浸漬処理するなど、健全なものを植え付ける。

## 3 マンゴー

### 着果～果実肥大期の病虫害防除対策

- a 4月中旬の調査の結果、炭そ病、チャノキイロアザミウマ、マンゴーツメハダニの発生が認められた。
- b 炭そ病に罹病した葉・花序等は除去し、施設外へ持ち出し処分する。
- c チャノキイロアザミウマの発生源となる不必要な新葉を除去し、ビニール袋に密閉して持ち出し処分する。
- d チャノキイロアザミウマ、マンゴーツメハダニは水に弱いので、晴れた日に灌水を兼ねて動噴で洗い流すことも密度を下げるのに有効である。
- e この時期から軸腐病も発生しやすいので、施設内の通気をよくするとともに、薬剤による予防に努める。
- f チャノキイロアザミウマは薬剤抵抗性を発達しやすいことから、同系統薬剤の連用を避ける。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



## 沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
北 部 駐 在	〒905-0012 名護市名護4605-3(農業研究センター名護支所内) TEL 0980-51-1537 FAX 0980-51-1538
宮 古 駐 在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40 TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八 重 山 駐 在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6 TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157